

言語文化学科 国語国文学コース

太宰治『お伽草紙』論

―家庭的〈日常〉と〈理想郷〉との相関を中心に

文学部 二〇二二年度
A18LA001

あきた いぶき
秋田 維吹

目次

序章 はじめに

(一) 作品梗概と本論の目的

(二) 先行研究の概観

(三) 〈日常〉 〈非日常〉 〈理想郷〉 〈現実〉 の定義

第一章 「前書き」と語り手

(一) 「前書き」と家庭

(二) 「前書き」の「父」と本文の語り手

第二章 「瘤取り」

(一) お爺さんの〈日常〉

(二) お爺さんの〈非日常〉 〈理想郷〉

第三章 「浦島さん」

(一) 浦島の〈日常〉と自己評価

(二) 浦島と「聖諦」

1

1

1

3

4

4

5

10

10

11

15

15

16

(三) 〈現実〉受容の物語としての「浦島さん」	19
第四章 「カチカチ山」	21
(一) 愚鈍な狸とその自己評価	21
(二) 〈非日常〉的存在としての兎	23
(三) 「カチカチ山」の結末	24
第五章 「舌切雀」	26
(一) 「舌切雀」の冒頭―「桃太郎」の放棄	26
(二) お爺さんの〈日常〉	26
(三) お照さんとの対話とお爺さんの自己認識	27
(四) お爺さんの欲求とお婆さんの存在	29
(五) お婆さんの喪失と結末	30
終章 まとめと展望	34